

# 1. 環境情報普及啓発事業の概要

環境研究センター 企画担当

高知県環境研究センターでは、平成18年度から25年度まで県民に分かりやすい環境情報の提供をすることを目的に環境情報啓発活動の実践を行ってきた。このたび、今後の環境業務の展開を考える基礎資料とするため、この取り組み内容について整理したので報告する。

## 1. はじめに

高知県では、平成16年度から地方財政の逼迫により全庁的な職員削減と一部業務のアウトソーシング化が行われた。

当センターでも平成18年度からアウトソーシング推進関連業務の一環として、試験研究結果を基にした各分野への情報提供や環境に関する普及啓発について、民間企業から企画提案を受け「環境情報普及啓発事業」を行ってきた<sup>1)</sup>。

事業の主な内容は、県民に分かりやすい形で環境情報の提供を行い、環境問題などの解決につながる地域活動に活かすことを目的とし、環境情報の発信、環境学習会の実施、環境啓発資材の作成等を行ってきたが、委託形式による「環境情報普及啓発事業」は、平成25年度で終了することとなった。

そこで、今後の環境情報提供の在り方や業務展開の検討を行う基礎資料とするため、これまでの成果や問題点の取りまとめを行った。

## 2. 業務の概要

業務の概要は表1のとおり。

平成18年度から委託業務として実施し、ホームページ内容の充実による環境情報の発信、地域コミュニティや団体が主体的に環境啓発活動を行えるよう核となる人材を育成する環境教育リーダー研修会の実施、実際に活動に使用する資材作成等、環境情報普及啓発に必要と思われる事業を行ってきた。

表1 主な事業内容

委託年度	親子環境学習	研修事業*	学校支援	啓発資材
H18	○	○		ガイドブック
H19	○	○		下敷き
H20	○	○	○	パネル
H21	○	○	○	清流度計
H22	○	○	○	絵本
H23	○	○		パネル等
H24	○	○		ガイドブック
H25	○	○		観察水槽

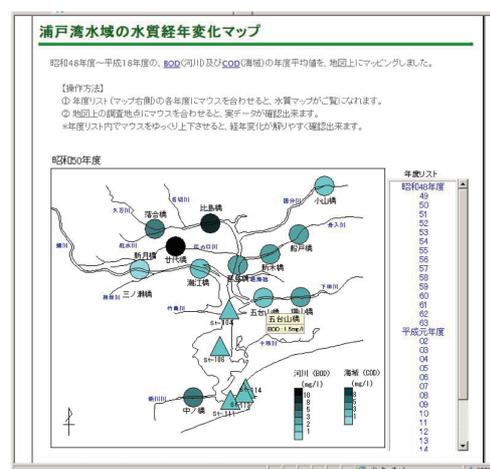
\*研修事業：環境教育リーダー研修、市町村環境行政関係者等研修

## 3. 業務の実施内容

### 3.1 環境情報の発信

#### 3.1.1 地理情報システム (GIS) を利用したデータ提供

当センターが保有する30年以上にわたる測定データを時系列にグラフ化し、地理情報システム (GIS) を利用して地図イメージへのマッピングを行なう事により、より身近な情報として実感出来るコンテンツを作成した (図1)。



・地図上で、水質の時系列的な変化を、簡単な操作 (マウスを動かすだけで) 閲覧可能

図1 特徴

- ・水質の経年変化が、地図上で簡単な操作で閲覧可能
- ・高知県の公共用水域のBOD及びCODの測定結果、昭和48年度以降34年間分をマッピング
- ・大気汚染物質の年間測定結果（一般環境測定局、自排局）をマッピング

### 3.1.2 調査研究報告

過去の調査研究報告を電子化して、ホームページに掲載し、環境に関する専門的な情報ライブ러리として提供した。

### 3.1.3 定期コンテンツ

平成9年から18年までに発行していた「かんきょう通信」に代わる定期的な情報発信として、県民に関心の高いと思われる環境情報や県内の自然等を編集した「環境トピックス」、「高知の自然・景観」などのコンテンツの作成を行なった。

また、県民参加型ブログへの第一歩として、環境教育リーダー研修会（後述）の研修生が「高知の風景ココが好き」というテーマで、研修生自身がお勧めする高知の風景や文化を県外の方に紹介する目的で書いた記事を公開した。

#### <環境トピックス>

- ・光化学オキシダント
- ・公共用水域水質測定結果
- ・平成の名水 黒尊川（その1）
- ・平成の名水 黒尊川（その2）
- ・太陽光発電
- ・酸性雨
- ・高知県のごみ処理事情
  - ・ごみ問題とは？
  - ・ごみってなに？
  - ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
  - ・高知県の一般廃棄物の現状
  - ・高知県の産業廃棄物の現状
  - ・産業廃棄物の処分
  - ・管理型産業廃棄物処理施設  
エコサイクルセンター
- ・大気汚染物質
  - ・大気汚染の原因は？
  - ・PM2.5（ピーエム2.5）ってなに？
  - ・PM2.5による健康への影響
  - ・国内のPM2.5への対策
  - ・PM2.5のリスクを正しく回避する

- ・地球温暖化
  - ・地球温暖化のメカニズム
  - ・日本の京都議定書目標達成状況
  - ・地球温暖化に関する最新の科学報告書
  - ・高知県の取り組み

#### <高知の自然・景観>

- ・いの町（仁淀川）
- ・森で女王に拝謁（高知県東部）
- ・真夏の稲刈り（高知市東部）
- ・春、桂浜（高知県南部）
- ・紙の鯉のぼり（いの町波川）
- ・菜の花と蜜蜂（四万十市西土佐）
- ・ビルの谷間のテナガエビ（高知市鏡川下流域）
- ・早春の水辺で観察会（高知市鏡川）
- ・ツララのパイオルガン（旧吾北村）
- ・木洩れ日に舞う白い妖精（高知県中央部）

#### <あなたに届けたい！高知の自然・景観ブログ>

- ・風景1 天空に広がるカルスト高原（津野町）
- ・風景2 街中と郊外に棲む鯉ごころ  
(高知市・いの町)
- ・風景3 私はやっぱり街路市!!お城下で賑わう新鮮 野菜市（高知市）
- ・風景4 時を刻んだ遍路道と田園風景  
(南国市国分寺周辺)
- ・風景5 高知城で味わう歴史ロマンと眺望絶佳  
(高知市)
- ・風景6 千本山～林木遺産資源保存林～  
(馬路村)
- ・風景7 空中散歩～吾川スカイパーク～  
(仁淀川町)
- ・風景8 路面電車が通る街並み（高知市）
- ・風景9 大座礼山～樹齢600年の巨木ブナ～  
(大川村)
- ・風景10 牧野植物園へのアプローチ（高知市）
- ・風景11 私たちの大切な四万十川（津野町）

#### <携帯サイト>

- ・野外での水生生物調査で利用できる、水生昆虫の図鑑

### 3.1.4 環境情報データベース

県民、事業者等の環境情報の利便性を高めるため、モニタリング結果、各環境分野の情報を集約したデータベースサイトを作成した。

#### <環境情報全般>

- ・環境モニタリング情報
- ・高知の環境
- ・高知県環境年表（2000年～2012年）
- ・環境基本計画
- ・環境白書等
- ・条例等

#### <環境分野ごとの情報>

- ・大気・水質に関する情報
- ・土壌・地下水に関する情報
- ・循環型社会形成に関する情報
- ・騒音・振動・悪臭に関する情報
- ・自然環境に関する情報
- ・生物多様性に関する情報
- ・地球温暖化に関する情報
- ・環境アセスメントに関する情報
- ・環境教育に関する情報
- ・多様性の豊かな高知について

#### 3.1.5 アクセス分析

アクセス分析サービス（GoogleAnalytics）を平成19年度に導入し、ホームページへのアクセス数の把握を行なった。ページ別アクセス数や様々な切り口での分析が可能で、今後のページ作りの参考データを収集することが可能となり、業務の報告に活用している。

#### <分析対象データ>

平成19年9月1日～20年12月31日の16ヶ月間（488日間）のアクセスログ

#### <セッション数の推移>

- ・9月から10月にかけて増加
- ・「ゴミ」に関するキーワードでアクセスが最大
- ・ある小学校への確認によると、社会科で「ゴミ」を扱う授業があった。
- ・アクセス時間帯、9～12時、14～16時に集中（授業中）

#### <検索キーワード>

特定のものが多いという結果ではなく、数多くの環境に関するキーワードでアクセスされていた。

主なキーワード

- ・地球温暖化グラフ

- ・酸性雨とは
- ・アスベストとは
- ・水の汚れ
- ・食べ残し

#### 3.1.6 意見・質問専用フォーム

ホームページに関する意見、環境に対する質問を受付ける専用のフォームを作成し、県民のニーズを反映できるホームページづくりに役立てるようにした。

情報の送信については、高知県のWebサーバーにて提供されている、共有のメール送信機能を利用した。

#### 3.2 環境学習会

##### 3.2.1 親子環境学習会

近年のライフスタイルの変化により、日常や学校生活等において自然との触れ合いが少なくなってきた。

当センターのアンケート調査でも、野外での自然体験を望む声が多くあったため、親子で学ぶ野外での環境学習会を夏休みの自由研究にも活用することができるようにと夏期に実施した（表2）。

また、平成21年度からは、環境教育リーダー研修の受講者が、講師実習の機会として参加した。

環境学習会終了後は、次回の研修会に反映させるためアンケート調査を実施し、感想や意見を集約した。

##### 3.2.2 環境教育リーダー研修会

将来的に地域で環境教育活動の指導者として活躍できる人材の裾野を広げるため、県内在住の一般県民を公募し、県内で活躍する講師を招いて環境教育に関する理念、技術等を学ぶ環境教育リーダー研修会（以下「リーダー研修会」という）を実施した（表3）。

募集方法は、ホームページ、新聞、ポスター及びチラシを作成し、学校・郵便局・書店等に配布した。

##### 3.2.3 学校教育活動支援出張講座

小、中学校での環境教育に関する授業やクラブ活動等の推進、支援を目的として、出張講座開催の希望校を募集。希望校へ出向き、学校では行われていないテーマや実験等を出張講座として実施した（表4）。

表2 環境学習の概要

年度	テーマ	学習内容	参加者(親子)
18	干潟の生きもの観察会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉鎖性海域を学ぶ, ビデオ観賞</li> <li>・干潟の観察会</li> <li>・ひき網で碎波帯の生物をつかまえる</li> <li>・海岸のゴミひろい</li> </ul>	34名
	仁淀川水質調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「川の汚れや自浄作用について」</li> <li>・仁淀川水質調査</li> <li>・川の自然度調査、透視度計の作成</li> <li>・水質をはかってみよう(パックテストでの水質調査)(アカメ標本の展示)</li> </ul>	14名
19	仁淀川水質調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトルで水のきれいさをはかる ペットボトルの透明度計作成</li> <li>・CODパックテスト</li> <li>・水のリサイクル実験</li> </ul>	19名
	大気汚染度調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マツの葉っぱは空気のごれのバロメーター 高知城周辺でのマツの葉っぱ採取</li> <li>・レーヴェンフックの顕微鏡作成 マツの葉の観察</li> </ul>	10名
20	大気の汚れと酸性雨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸性雨人造実験</li> <li>・自動車排ガスによる水の酸性化実験</li> <li>・酸性雨影響実験</li> </ul>	18名
21	仁淀川水質調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・透視度, CODパックテスト</li> <li>・下水処理の原理 ろ過を体験, ろ過, 沈殿, 活性汚泥</li> <li>・ヒゲナガカワトビケラの形を観察 落ち葉等を食えること, 川の浄化に役立っていること</li> </ul>	17名 リーダー研修受講者10名
22	鏡川水質調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清流度, CODパックテスト 鏡川上流と下流(市街地)の水質を比較</li> <li>・カワゲラ, トビケラ, カゲロウ類の観察 有機物(川の汚れ)を食えること, 川の浄化に役立っていること</li> <li>・下水処理の原理を体験 汚水の浄化には, 自然界の原理と同じ微生物(活性汚泥)の作用を利用していること</li> </ul>	31名 リーダー研修受講者5名
23	森川海のつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の気温調節機能 森の機能を理解し, 私たちの生活とのかかわり</li> <li>・落葉はどこへ 落葉は分解者により, 栄養豊富な土になっていくこと</li> <li>・森林の水源涵養機能</li> </ul>	14名
24	物部川の水質を調べよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物部川の様子について</li> <li>・清流度計, CODパックテスト 物部川と日ノ御子川の水質 家庭から持参したお風呂の残り湯などの生活排水の水の汚れを調査</li> </ul>	52名 リーダー研修受講者7名
25	仁淀川の水質を調べよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川の様子について</li> <li>・透視度計, 清流度計, CODパックテスト 仁淀川上流・下流・生活排水を調査</li> <li>・水生生物の調査</li> </ul>	65名 リーダー研修受講者2名

表3 リーダー研修会の概要

年度	テーマ	内容	参加者
18	水生昆虫からみた水質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物部川流域でフィールドワーク実習</li> <li>・水生昆虫の観察</li> <li>・講義「水生昆虫観察、川の汚れ」</li> </ul>	22名
19	水生昆虫学スキルアップ ～虫を知る、自分を変える～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水生昆虫の採集法、水質判定法の紹介、CODバックテストの使用法・注意点の解説及び実習</li> <li>・水生昆虫概論、生物学的水質判定法の解説、顕微鏡を用いた水生昆虫の観察、種の同定等を実習</li> </ul>	8名
20	河川環境と水生昆虫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CODバックテスト、透視度計を使った河川水質の調査法を実習</li> <li>・河川での水生昆虫の採集法等を学び、実際に水生昆虫を採取し、顕微鏡観察及び種の同定等を実習</li> <li>・講義「水生昆虫と河川水質について」</li> </ul>	14名
	沿岸海域環境 ～閉鎖性海域～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉鎖性海域の特徴や泥質干潟での生物観察を実施</li> <li>・底質から硫化水素の発生実験をし、検知管で濃度を測定、ミドリイガイによる水質ろ過実験</li> <li>・講義「閉鎖性海域の水質汚濁の現状や汚濁のプロセス、干潟生物による水質浄化のメカニズム」</li> </ul>	14名
21	教育学的視点からみた環境教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「環境教育のめざすもの～学校教育をとおして～」</li> <li>・教育学的視点から、学校での環境教育活動の様子や環境教育のねらい、子供たちの成長に応じた教育手法など</li> </ul>	10名
	講師実習に向けた体験プログラムづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境活動支援センター「えこらぼ」における講師派遣事業について</li> <li>・講師実習へ向けた各グループの体験プログラム作りの完結と、学習会での学習内容統一のための各グループ間の調整、講師模擬実習</li> </ul>	10名
	環境指標生物としての水生昆虫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川の水質調査法についてフィールドワークを行ったあと、水生昆虫の採集法などの研修を受け、河川の様々な環境で水生昆虫を採取</li> <li>・講義「水生昆虫と河川環境について」</li> <li>・CODバックテストについて、その原理や使用方法、注意点などを学び、水質の調査を実習</li> <li>・河川水生昆虫の概要、顕微鏡で採取した水生昆虫を観察</li> <li>・講義「種の特徴の説明や、生態を反映した体のつくり」</li> </ul>	6名
	閉鎖性海域における水質と沿岸の生き物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湾内に広がる干潟において、水質浄化に役立っている底生生物たちの生息状況や巣穴の様子、底質の貧酸素状態を観察</li> <li>・講義「閉鎖性海域の特徴と汚濁のプロセス、干潟の水質浄化作用のメカニズム」</li> </ul>	7名
22	浦戸湾東部流域下水道高須浄化センター見学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高須浄化センタースタッフによる施設説明・見学</li> <li>・講師実習に向けたプログラムづくり</li> </ul>	5名
	教育学的視点からみた環境教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「環境教育のめざすもの～学校教育をとおして～」</li> <li>・講師実習に向けたプログラムづくり・模擬演習</li> </ul>	5名
23	環境教育ボランティアの現状 環境教育活動に多用されるネイチャーゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「環境教育にかかるボランティアの現状」</li> <li>・講義「高知の環境について」</li> <li>・実習「環境教育活動を楽しく進める技術」</li> <li>・ネイチャーゲーム「カモフラージュ」や「自然大好き」などのアクティビティを体験</li> </ul>	11名

24	生物学的視点からの水質評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知市を流れる鏡川の上流，行川地区にでかけ，フィールドワークを実施</li> <li>・水生昆虫の採取方法や棲んでいる生態などを学び，実際に自分たちで採取</li> <li>・水生昆虫と水質環境についての講義と，採集した水生昆虫の顕微鏡観察</li> </ul>	6名
	科学的視点からの水質評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の濁り具合を確かめる「透視度計」で測定</li> <li>・高知県四万十川条例でも規定されている「清流度計」の使い方を学習</li> <li>・CODパックテストの水質調査の実施後，日本での水質環境保全をめぐる歴史や，水質検査項目の基礎，フィールドでの安全管理などについて受講</li> </ul>	6名
	環境教育活動支援事業の紹介と救命救急講習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県環境活動支援センター「えこらぼ」より，役割と活動内容，実際の団体や個人による活用事例などの紹介</li> <li>・講師の派遣やコーディネートの状況，イベント開催の様子，啓発資材の貸出の紹介など，研修生の活躍の場の紹介や支援の具体的内容などを受講</li> <li>・消防署消防員の指導による救命救急講習の受講</li> </ul>	6名
	生物学的な水質調査方法（水生昆虫）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鏡川の上流で，フィールドワークにおける注意点や水生昆虫の採取方法などを実習</li> <li>・水生昆虫の生態や体の特徴などを学び，顕微鏡を使った水生昆虫の同定を実習</li> </ul>	7名
25	森林学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「全国各地の名木の紹介や自然界における森林の役割」</li> <li>・ふかふかの腐葉土を実際に踏み，「水を蓄える」という役割を体で体験</li> <li>・カッコウ笛などを作成し，昔ながらの手作りおもちゃに触れあう</li> </ul>	2名
	化学的視点からの水質評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「環境教育活動のねらいや化学的視点からの水質評価」</li> <li>・清流度計やパックテストを使った水質調査方法を実習</li> <li>・大気測定局（伊野合同庁舎），工場等の排水が流入する河川や浄化施設の見学</li> </ul>	2名
	環境教育活動支援事業の紹介と救命救急講習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県環境活動支援センター「えこらぼ」より，役割と活動内容，実際の団体や個人による活用事例などの紹介</li> <li>・講師の派遣やコーディネートの状況，イベント開催の様子，啓発資材の貸出の紹介など，研修生の活躍の場の紹介や支援の具体的内容などを受講</li> <li>・消防署消防員の指導による救命救急講習の受講</li> <li>・野外で使えるロープワークの学習</li> <li>・CODパックテストや清流度計の使い方の復習</li> </ul>	3名

表4 学校教育活動支援出張講座の概要

年度	テーマ	内容	参加者
20	大気の汚れの調べ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マツの葉の気孔を顕微鏡画像ビデオ出力装置を使った観察</li> <li>・交通量の違う4地点に生育するマツの葉を観察し，各地点の汚染度を数値（単位：パーセント）で表す方法を実習</li> </ul>	16名 小学生
21	酸性雨について調べよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CODパックテストを用いて，雨水のpHを調査</li> <li>・自動車からの排気ガスを採取し，酸性雨の原因物質である窒素酸化物が排出されていることを検証</li> <li>・人工酸性雨をつくる実験を行い，酸性雨の仕組みや原因を学んだ</li> </ul>	37名 小学生・保護者
	川と私たちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CODパックテストを使って，川の水質比較を実施</li> <li>・家庭から持参した米のとぎ汁や風呂の残り湯などについて，汚れの程度を調査</li> <li>・水質のランク付け（国交省「河川水質の新しい指標」に基づく「人と河川の豊かなふれあいの確保」項目）を調査</li> </ul>	26名 小学生・保護者
22	高知県の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県の環境の概論的な講義</li> <li>・講義「水質について」</li> <li>・高知県の急峻な山々，水量豊かな川及び黒潮流れる海のことなど，県内の“水”に係る環境の現状について受講</li> </ul>	26名 小学生・保護者

### 3.3 環境啓発資材

#### 3.3.1 かんきょう通信

環境情報を掲載した情報パンフレットを作成し、県内の小・中学校、こどもエコクラブ、試験研究機関等に配布した。

<掲載内容>

##### 第1回

- ・ 鮎おどる清流を目指して
- ・ “VOC” とはどんなもの？  
(大気汚染防止法改正について)
- ・ ハクセンシオマネキみ〜つけた！  
(親子かんきょう学習会報告)

##### 第2回

- ・ 高知県アスベスト対策続報  
(アスベストに関するセンターでの研究紹介、労働安全衛生施行令改正について)
- ・ 透視度計をつくったよ  
(親子かんきょう学習会報告)
- ・ 環境教育初心者リーダー研修会開催

##### 第3回

- ・ 加速する地球温暖化  
(IPCC 第4次報告とフロン回収・破壊法改正について)
- ・ 石の裏の小さな証人  
(環境教育初心者リーダー研修会報告)
- ・ 環境学習を応援します  
(センター環境学習会支援事業の広告)

#### 3.3.2 水生昆虫下敷き

水生生物による水質調査が行われているが、水生生物の種の判別は長年の経験と豊富な知識が必要となるため、フィールド調査に活用できる水生生物の写真と印刷した下敷きを作製した。下敷きには、これまでのような種の写真だけを載せたものではなく、その特徴などを記載し、より種判別に役立つようなものにした。

#### 3.3.3 環境啓発パネル

環境学習会での利用を想定し、水質関連等のパネルの作成をした。

<各種パネル>

- ・ 水質評価項目COD（シーオーディー）ってなに？
- ・ 河川水質の新しい指標

- ・ 水質検査をしてみよう
- ・ 酸性ってなに？
- ・ 水の汚れをしらべてみよう
- ・ 水生昆虫をつかまえよう
- ・ 放射能と放射線
- ・ 放射線の体への影響
- ・ 被ばくの影響を表す量
- ・ 低線量被ばくの影響

パネル内容を図2に示す。



図2 パネルの一部

#### 3.3.4 簡易清流度計

小学生を対象とする環境学習会での利用を想定した簡易な清流度計（図3）を作成した。



図3 簡易清流度計



### 3.4 市町村環境行政関係者等研修会

自治体等の環境行政関係者等を対象に、環境情報の知識、環境問題の科学的理解や対処のための技能習得を支援することを目的とし、環境保全に関する事柄について講義や実習を交えた研修会を実施した(表5)。

まず、各自治体での関心の高い分野、問題となっている環境分野などを把握するため、34自治体にアンケートを送付し、23自治体から回答を回収(回収率67.6%)し、これを参考に研修会を実施した。

アンケートの結果を表6に示す。

表5 市町村環境行政関係者等研修会の概要

年度	テーマ	内 容	参加者
24	水	・講義「農耕地の地下水を汚染から守る」～浄化作用の活用～ ・講義「水質保全に関する基礎」～水質検査項目の意味からその実際まで～ ・講義「水質汚染事故への対応」～環境危機管理として～	31名
25	大気	・講義「気象と防災」～防災気象情報を活用して住民の安全を守るために～ ・講義「高知県におけるPM2.5について」 ・悪臭・騒音・振動の実技 悪臭防止法・騒音規制法・振動規制法など 悪臭：標準物質を使って臭気官能試験体験 騒音・振動：測定器を使って測定方法実習	32名

表6 自治体へのアンケート結果

順位	市 区 域	町 村 区 域
1位	騒音振動関連	生活排水対策, 廃棄物関係
2位	地球温暖化, 有害化学物質関係(ダイオキシン類など)	地球温暖化
3位	大気汚染防止法, 水質汚濁防止法 水質調査項目・結果の見方, 臭気 生物多様性(生態系サービス)	水質汚濁防止法
その他	生物多様性(生態系サービス), 森川海の連環, 水生生物調査(基礎, 上級), 水処理方法の基礎	光化学オキシダント, 排ガス測定結果の見方 大気質関連, 放射能, 原発

### 3.5 関係機関と連携して実施する事業

環境情報に対するニーズは、その受け手である県民、企業、学校等でそれぞれ異なっており、情報を活用するための手法や成果もそれぞれ違ったものとなっている。

そこで、他の関係機関と連携して環境問題などの解決につながる地域活動の活性化に役立つことを目的とし、生涯学習グループなどの連携先関係機関への本事業の説明・周知を行ってきた。

また、当センター及び高知県環境活動支援センターえこらほで貸出している環境学習用資材の利用促進をはかるため、実際に貸出資材を使用した環境学習事例を紹介するコンテンツ「環境学習プ

ログラム」を作成した。

## 4. 課 題

環境情報の発信では、県民が必要としている環境情報の収集、情報の更新が重要である。

リーダー研修事業では、環境教育活動の初心者を対象としているため、指導的立場として活躍するまでには、研修後もボランティア活動などを通じた継続的な自己研鑽を積むことが必要であるが、個人での活動には限界がある。このため、研修後のサポート体制(活動の場の提供、フォローアップ研修等)や、その活動を支援してくれる団体等とのネットワークの構築が必要であると

考えられる。また、リーダー研修会受講者の活動については、把握できていない。

市町村環境行政関係者等研修会事業では、現場で必要とされている研修テーマの選択や、開催時期などを把握するために事前にアンケート調査を行って実施した。しかし、次々と生まれる環境問題に対応し、時節に沿ったテーマの選択や技術研修を行う技術者・機器の確保など、実践に即した研修を行うためには、課題が多い。

## 5. おわりに

これまで、県民に対して、分かりやすい形で環境情報の提供を行うことで、環境問題などの解決

につながる地域活動に役立ててもらえるよう事業を実施してきた。

「環境情報普及啓発事業」は、平成25年度で終了するが、この事業で実施してきた市町村環境行政関係者等研修会は、環境業務の基礎的な知識や環境現場で活用できる技術習得を中心に引き続き開催する予定である。

今後も、専門機関として、新たな環境問題に対して、分かりやすい手段で正確な情報を提供する役割を果たしていかなければならない。

## 参考文献

- 1) 高知県環境研究センター所報第29号